

## 「Shirutchi」 — エドウィン・ダン氏報文 —

1876 (明治9) 年に札幌に開設された開拓使の牧羊場では、お雇教師エドウィン・ダンの指導により順調に羊頭数、羊毛生産高を増やしていった。そのため開拓使は事業の拡大を計画し、新たな牧羊場の設置場所を求め、エドウィン・ダンにより候補地の調査が行われた。

ダンは、1879 (明治12) 年9月27日に札幌を発ち、10月14日までの間、岩内、鶉村・館村・仙台野、知内と移動しながら調査を行い、地形、地質、地味、降雪、寒暖、風など気候の状態を勘案した結果、知内を「余力嘗テ北海道中目撃セシ大ナル牧羊ヲ開設スルニ最適スルハ此地ヲ以テ最トス」と復命した。また、この復命書の中で牧羊場を設置する地を知内に決定するのであれば、「知内村落ヲ距ル僅ノ所ヨリ市ノ渡停脚場ニ至ル迄ヲ良トス」としている。この復命書は開拓使札幌本庁民事局勸業課の『勸業課公文録 牧畜ノ部 羊

豚』(北海道立文書館所蔵 A4-81) という簿冊中にその和訳が綴られて残っているが、英文の復命書は未見である。

この調査報文を添えて、1880 (明治13) 年6月に開拓使の村橋久成権少書記官は牧羊場を知内に開設することを黒田開拓長官に開申し、検印を受けた。しかし、開拓使の廃止を前提にしたのか、1881 (明治14) 年3月、知内の牧羊場開設は「官ニ於テ開設相成ラサレハ大有社長堀基へ該場開設可差許答ニ有之」(『報告書類』簿書4708) とされた。同じ頃、堀基と山田慎から北海道に於ける牧羊開業のため農商務省所管下総牧場の綿羊貸与願が開拓使に出された『勸業係公文録』A4-116)。堀基は元開拓使の官吏、山田慎は知内村牧畜会社の2代目社長となる人物である。こうして知内村に開設されることとなった牧羊場は、開拓使の直営ではなく、明治14年5月に開拓使を辞職した村橋久成を

社長とする牧畜会社による開業となったと見られる。

牧羊場は開拓使の七重試験場の管理を受けるよう開拓使から指令があったためか(『勸業係公文録』A4-116)、14年6月9日から13日までエドウィン・ダンが村橋等を伴い、知内へ現地調査に赴く。そこには山田がダン等の来着を待っていた。

ダンは「二会社ヲ創立シテ尻内川溪野ニ家畜牧養所ト穀圃ヲ設置セラル、ノ挙アルヲ以テ過般其地方ノ検査ニ赴キタレハ左ニ之ヲ報告ス」として溪野の地味、季候、土地整頓、農圃、羊舎の項目を挙げて報告書をまとめ、7月1日付で開拓大書記官調所広丈あつに提出した。「Shirutchi」と題された英文のレポートである。

このレポートは表紙を含め12枚のA4版大の洋紙に書かれ、現在北海道立文書館に保管されている(『雇外国人よりの来翰』簿書番外12)。また、この和訳も『外国人贈答録』(簿書4546) という開拓使札幌本庁記録課外事係の公文書簿冊中に綴られて残っている。

## 牧羊場候補地選定のための調査報文

〔勸業課公文録〕（A 4・81/30 北海道立文書館）

エドウエン・タン氏報文

千八百七十九年十月廿一日札幌

呈

開拓大書記官調所広丈閣下

官有牧羊場ニ適スル地位探偵ノ為メ近頃余カ巡回ノ記ヲ此ニ報告セントス、但シ札幌発程ヨリ旅中ハ小阿瀬野坂ノ両氏ヲ伴ヒシニ全人等ノ余ヲ補助セルノ厚キト其最モ慇懃ナリシトハ余カ感佩スル所ナリ  
九月廿七日ヲ以テ余輩札幌ヲ発程シ旅中止ヲ得サルノ故障アリテ廿七日殆ント正午ニ及フ迄岩内ニ達スルヲ得サリキ、同日午後直ニ市街ノ背裏ニ当ル東方ノ原野ヲ巡視スルニ止マレリ、翌日ニ至レハ雨且風ニ係リ即チ茅ノ澗石炭坑ニ乗馬シ、該地ニ赴クノ好機ヲ得タルノ日はレナリ、十月一日ハ岩内ハツタリ両川ノ原野及ヒ廿九日ニ見残セシ岩内平野ヲ巡視スルニ終レリ、岩内平野ハ南北長サ約四里ニシテ一里ノ幅アリ、西ハ全ク海ニ露出シ、東ハ諸山ニ至ル迄漸々上レリ、此地樹木最モ稀ニシテ亦水利ニ乏シカラストセス、概シテ地味良好ナリト雖トモ地面大石覆被スルノ部少カラス、

降雪及ヒ残雪ノ久シキヲ以テ見ルニ季候モ亦札幌ト不同ナキモノ、如シ、然レトモ岩内ノ平野ハ西及西北全ク海ニ露晒スレハ秋冬春間ノ烈風ヲ悉ク受ケサル可ラス、直チニ市街ノ背後ニ当ル平野ノ一部ハ地味卓絶ナルニ似タリ、此地ノ面積約四百「エーカー」一「エーカー」ハ一千二百十坪許ナルベシト雖トモ過半農家ノ所有ニ属セリ、此地牧羊場トナスヲ得ヘシト雖トモ流水ノ之ヲ貫通スル者絶テアルコトナシ

岩内及ヒハツタル両川原野ノ地味頗ル豊饒ナルモ多クハ湿地トス、然レトモ其原中耕耨ニ適良ノ未開地多キモ其地勢牧羊場ニ適セサルカ如シ  
岩内平野ニハ夥多ノ綿羊ヲ牧羊シ得ヘシト雖トモ之ヲ冬季養フノ費用莫大ニシテ将来本使ノ希望ニ応スル程ノ牧地トナスコト難カルベシ、故ニ不得已余カ此地ノ便宜ナラザル事ヲ報道ス、本月二日早天小艇ニ乗シ海路雷電ヲ過キンタメ岩内ヲ出發セリ、然ルニ二里ノ沖合ニ至リ逆風南ヨリ起ルニ会シ不得已舳艫ヲ転スルニ至レリ、是ヲ以テ本月三日迄岩内ニ滞在セシナリ、五日黄昏七重ニ着、翌六日早天同地出發雨ヲ冒シ馬上ニテ十三里程不快ノ行路鶉川ノ溪野ヲ経テ即日鶉村ニ着セリ、翌日館村ノ殖民地ニ赴キ且ツ其隣地ヲモ巡視セリ、該地ハ鶉村ヲ距ル、僅カニ一里トス、此日仙台野ト唱フル西岸ニ接近セル広大ノ平野ヲ巡視セシニ此地ハ鶉越ヲ距ル、六里音部ヨリ三里ニシテ江差ノ北

方凡ソ六里ニアリ

鶉川溪モ亦美ニシテ鶉村ヨリ一里半ノ所マテ大野街道ニ亘リ是レヨリ其道路ハ該村外ツレニ至ル迄川溪

ニ入ル一良地アリ、所々ニ些少ノ樹木アリト雖トモ概ネ

開濶ニシテ植物ノ成熟ト土壤ノ外貌トヲ以テ監別ス

ルニ最モ豊饒タルモノ、如シ、若シ爰ニ小村ヲ設クル

トキハ最モ好地位タルベク、殊更大野江差間ノ新道竣功

セシトキヲ然リトス、其故如何ントナレハ其地位川溪ノ

一端ヨリ先キ端迄貫通スルヲ以テナリ、小阿瀬野坂兩

氏ニ伝承スル所ヲ以テ憶測スルニ、其地冬季寒威甚タ

劇烈ナルノ障碍アルカ如シ、冬間降雪深ク地面ヲ埋ム

ル三四尺ニ及ブト云フ、此鶉川溪ノ平野ハ本使ノ羊牧

トスル望ミニ応スル如ク濶大ナラズトス

館村ノ殖民地ハ館川筋ノ低地ニ在リ其地味卓絶ト雖

モ洪水ノ患ヲ免カレ難シ、村落大約五拾戸アリ村民冬

間寒威ノ酷烈ナルト雪深キト及ヒ風勢ノ厳シキトヲ

訴フレトモ其季候稍札幌ニ等シキカ如シ、館村接近ニ約

三百「エーカル」ノ稍良好梯状地

川ヲ中央ニ取テ山麓ノ方ニ至ルニ漸々段階状ヲナス地

ヨナス地　アリ是レ最良ノ草場トナスヲ得ベシ

仙台野ハ大約千「エーカル」開濶ノ広野ニシテ西沼海近

傍ヨリ起リ東方ニ至ル漸々昇テ約三百尺迄ニ至レリ

爰ニ於テ頓カニ降ル約二百尺ニシテ二百「エーカル」許

ノ美麗ナル溪野トナレリ、此平野ノ大半ハ全ク海ニ露

晒シ樹木流水ノアルヲ見ズ、地味頗ル瘦質ト雖トモ良牧

トナスヲ得ベシ、其東部下方ニ於ケルノ溪野ハ最良ノ

区地ニシテ四面山ニテ圍繞シ広野ノ方ニハ峭壁屹立

ス、而シテ大川其東南ヲ巡クリ小川又其中央ニ流ル、僅

カニ樹木ノ疎立スルアルヲ以テ此地ヲ美景ニナシ且

家畜ヲ日陰ニ居ラシムルニ足ル、余輩力伝聞スル所ニ

抛ルニ此地積雪他ニ比スレバ浅シ、是ヲ以テ考フルニ

西岸ノ各地ニ於ケルヨリ稍良ナルカ如シ、此溪野ハ川

上ニ上ル三十尺ナレバ自カラ排水シ一箇ノ牧羊場ト

ナスニ宜シト雖トモ狹隘ニ過ルヲ以テ本使ノ望ニ応ス

ベキニアラズ

本月九日函館着博覧会開場ニ従事シ十三日迄滞在全

日黄昏函館ヨリ青森ヘ向ケ解纜ノ汽船ニ乗シテ出発

其夜知内村落ニ接スル所ニ上陸セリ、即チ函館ヨリ海

上七里陸路十三里ヲ距ルノ地ナリ、翌十四日函館福山

間ノ街道知内川溪ヲ上リ知内ヨリ四里半福山ヨリ七

里ナル一ノ渡リト唱フル所ヘ赴ケリ

知内川溪ノ下部低地ハ海ニ接シ沼沢多シ、然レトモ其川

上(川口ヨリ半里)ヨリ僅ニ離ルノ地ハ稍高燥ナリ、此低

地中ニ一箇ノ広大ナル地アリ、知内村ノ上方半里ヨリ

起リ曾テ北海道ニ於テ目撃セル最良農圃ノ一ナリ、其

面積千「エーカル」アリ其中六百乃至七百「エーカル」ハ耕

勸最モ容易ナルベシ、此地タル高燥川水ヨリ高キヲ以

テ洪水ノ患アルコトナク且石其他耕勸ノ妨碍アルヲ見

ズ、此低地ニ於ル直ニ上端ヨリ一ノ渡リニ達スル迄川

堤漸々高マリ爰ニ至リ水面上凡ソ百尺アリ、該川ノ溪野ハ其幅殆ント半里ニ達スルモノヲ往々ニシテ該川ニ添フ地ハ双方トモ漸々斜ニ昇リ梯状ヲナセリ、此梯状地ノ中間ニ本川ヘ合流スル小流貫通シ是カ為メ五十「エーカル」ヨリ三百「エーカル」迄ニ地面ヲ分画ス、此数区

ニ余リアルニ至ルベシ、而シテ梯状地ニハ外国草ヲ播種シテ之ヲ牧草場トナシ下部ノ梯状地ハ牧場トナシテ少ナクモ三千頭ノ綿羊ヲ養フベシ、尚其頭數ヲ増加セントスルニ高所ノ梯状地ヲ加ヘナバ幾何殖スモ妨ケナカルベシ

ノ地ハ殆ント樹木ナク肥壤ナレバ専ラ外国ノ牧草ニ適シ且平坦ニシテ石ナケレハ容易ク開墾スルヲ得ベシ、蓋シ該梯状地ハ僅ニ六百或ハ七百「エーカル」ナルベシト雖トモ直ニ其背後ノ高所ニ至レバ川ノ兩岸ニ於テ尚一層高キ梯状地アリテ広袤モ稍大ナリ、其上部梯状地ノ地味ハ下部ノ梯状地ヨリ稍劣質ナルモノ、如シ

若シ本使ニ於テ余力建言ノ如ク知内平野ヲ以テ新規牧羊場トナスニ決定セラル、ニ於テハ、知内村落ヲ距ル僅ノ所ヨリ一ノ渡停脚場ニ至ル迄ヲ良トス、此数区ノ地ヲ実測シテ可成速ニ之ヲ整頓シ翌年ヲ待チ着手スヘカラシメンコトヲ勸奨ス 敬具

エドウキン・ダン

然トモ余輩ハ下部ノ梯状地ヲ最モ貴重ナルモノトシ、本使ノ需用ニ余贏アルヲ以テ其上部ノ梯状地ハ熟視セザリシナリ、其下部ノ梯状地ハ長サニ里半恰モノノ渡村ニ達スル辺ニ終レリ、此知内川溪ハ東南海ニ面シ其他ハ悉ク諸山ニテ圍繞セリ、小阿瀬野坂ヨリ伝承スル所ニ抛レバ此低キ溪野ノ積雪他ニ比スレバ尚浅ク一ノ渡リヘ近ツクニ随ヒ次第二深ク爰ニ至テ恰モ札幌ニ在ルガ如キノ深サトス、此溪野ハ冬間寒風ヲ防ケハ七重ニ於ルヨリ平常暖氣ナリト云ヘリ、余力嘗テ北海道中日撃セシ大ナル羊牧ヲ開設スルニ最適スルハ此地ヲ以テ最トス、故ニ余ハ之ヲ勸奨セザル可ラス考フルニ下低ノ平地ヲ一箇ノ圃トナシ之ニ穀物乾草及ヒ根塊等ヲ栽培セバ寒中数千ノ綿羊ノ食料ニ充ル

# 知内調査報文

〔『外国人贈答録』簿書4546/40 北海道立文書館〕

〔朱〕小林訳

贈第四十二号

千八百八十一年七月一日 札幌

呈

開拓大書記官調所広丈閣下

一 会社ヲ創立シテ尻内川溪野ニ家畜牧養所ト  
穀圃ヲ設置セラル、ノ拳アルヲ以テ過般其地

方ノ検査ニ赴キタレハ左ニ之ヲ報告ス

尻内川ノ沃野ハ北海道中ニ在テ函館ノ南西ニ

当リ同所ヨリ海路約七里陸路十三里アリ、尻内

川ノ方向ハ概ネ東ヨリ稍南方ニ流レ津軽海峡

ニ注入ス

六月九日朝、村橋大崎諸氏ト共ニ函館ヲ発シ同

日夕刻尻内溪野ニ着セリ、同所ニハ既ニ山田氏

アリテ余輩ノ来着ヲ待タレタリ、其ヨリ十三日

マテ同所ニ滞在シ同日七重街道ヲ経テ帰函ス、

尻内川溪野ハ其川口ノ辺ニ於テ幅約一里アリ

之ヲ浜ル四里、一ノ渡ニ至ルマテ漸々狹隘トナ

レリ、爰ニ至リテハ川ノ兩岸山岳ニ接着ス

尻内川溪野ノ地味ヲ大別シテ三種トス、即チ左

ノ如シ

第一種

該沼川兩岸ノ低地ヲ称ス、此地乾燥ニシテ水患

ナク頗フル豊饒ナリ、其地位該川ノ兩側ナル溪

野ノ低所ニシテ数区二分レ或ハ其面積八十英

町或ハ四百英町ノモノアリ、是レ溪野中ノ最モ価値

アル地ニシテ其面積總計約千英町(百二十万坪)

トス、此計算ハ尻内溪野ノ外ニ在ル地面約百六

十六英町(即チ二十万坪)ヲモ籠ムルモノトス、是

レ固有ノ尻内溪野ニ接近スルヲ以テ算入ス

第二種

該川底ヨリ高サ約三十尺乃至六十尺ニ在ル川

台即チ高原ニシテ地勢平坦開濶全ク砂礫ヲ交ヘ

ス、地味良好牧草ヲ播種スルニ適セリ、此地位

タル該川ノ上溪ニシテ第一種ノ地下聯接ス、面積

六百英町(即チ七十万坪)アリ、此地モ亦数区二分

裂セリ、譬ヘハ甲ハ川ノ此方、乙ハ川ノ彼方ニ在

ルカ如シ

第三種

所々沼沢状ヲナス低湿ノ地ニシテ過半海ニ近

接セハ概ネ排水ニ便ナリ、之ヲ施セル後ハ第一

種ノ地ニ編入スルヲ得ヘシ

前条ニ掲クル三種ノ地ニ於ケルノ外直チニ

該溪野ノ近傍ニ尚高燥開濶ナル大高原アリ、

其地味劣質ナルモ海外ノ牧草種ヲ播種シ得  
ヘキヲ以テ牧場トナスニ良ナリ

#### 季候

山田氏ノ質問ニ就テ却テ了解シ得タル所ヲ  
以テ下件ヲ判決ス、尻内溪野ノ季候ハ其上  
部  
雪深キ地ヲ除クノ外ハ恰モ七飯ノ季候ト等  
シ、且ツ此溪野ノ南東ニ於ケル外ハ悉ク山岳  
圍繞セルヲ以テ七飯函館ノ如ク冬間寒威凜  
烈ナラス

熟ラ顧フニ尻内川ノ溪野ハ余カ曾テ北海道  
中ニ於テ見聞シ得タル無人郷ノ最良地ニシ  
テ函館及ヒ日本内地ヲ距ル遠カラサルニ從  
来何故久シク此地ニ殖民セサルヲ疑ハサル  
ヲ得ス

#### 該地整頓ノ概要

尻内溪野ハ牧羊ヲ目的トスルノ計画ナレハ園  
圃ノ收穫物ヲ沽却スル而已ト否ラサルトニ  
因テ其施ス所ノ作業モ違ハサルヘカラス、是  
ヲ以テ予メ此溪野ノ地味ヲ熟視シ瘦地ニハ  
甲ヲ以テシ沃土ニハ乙ヲ以テスル如ク各其  
地ニ適スルモノヲ作テ其地ヲ利用スヘシ、否  
ラサレハ經濟上ニ大關係ヲ生スレハナリ  
余カ第一種ト称セル尻内ノ地ハ各種農産物  
ノ栽培ニ佳ナルノミナラス土地乾燥ナルヲ

以テ羊或ハ其他家畜類ノ牧養ニ最タルモノト  
ス、然レトモ第二種即チ川台ノ地ハ牧畜用ノ草  
ヲ培養スルニ殆ント普ク適良ナレハ第一種  
ノ地ヲ以テ冬間家畜ヲ養スルタメノ牧草  
及ヒ穀類及ヒ販売スヘキ蔬菜穀類ヲ栽培ス  
レハ最良ニシテ好策ナルヘシ、第二種ノ地ニ  
ハ外国ノ草種ヲ下種シテ春時ヨリ秋季ニ至  
ルマテ羊ヲ牧養スルニ用フヘシ、故ニ第一種  
ノ地ヲハ農圃ト想思シ第二種ノ地ハ牧地ト  
考フヘシ

#### 農圃

第一種ノ地ハ前条ニ云ヘル如ク川ノ兩岸ニ  
在リテ各所（四区乃至五区）ニ散在シ其長約一  
里ニシテ幅八川ノ兩側ニ跨リテ二百間ヨリ  
十町ニ至ル、其最大最良ナル地ハ川ノ北東傍  
（函館最近ノ所）ニ在リテ其面積四百英町（四拾  
八万坪）アリ、此地長約殆ント一里ニシテ幅三  
町ヨリ八町ニ至ル、其二亜ク良地ハ直ニ此地ニ  
對シ川ノ南西ニ在リ小溝ノタメニ二分裂  
ス、其面積約二百七拾英町（三拾二万五千坪）其  
他ニ於ル此第一種ノ地ハ此二大区域ノ近傍  
ニアリ  
此地ノ一端ヨリ其外ツレニ至ルノ距離ハ長  
大ナルモノナレトモ其中間ニ一川アリテ往々

通過スルヲ得サルコトアリ、是ヲ以テ之ヲ一耕地トナシ只一備ノ厩農夫ノ居所其他ノ建物ヲ以テ管理スルハ難シ、故ニ少ナクモ之ヲ三分シ各耕地ニ充分ニシテ各箇独立シテ作業スヘキカ、獸ノ厩及ヒ農夫ノ住家ヲ造営アラシテ勸奨ス、此各耕地ハ素ヨリ一名宛ノ委員ヲ具フヘク、且ツ各耕地ノ準備ハ川ノ出水或ハ甲処ヨリ乙処マテノ間建築物等ヲ以テ妨害シ之ヲ中断セサル如ク整頓アルヘシ  
川ノ北東ニ在ル最大区域ニハ二ヶ所ノ建物ヲ築造アラシテ勸奨ス、此地ハ長約一里アレハ此二箇ノ建物ハ此地ノ両端ヨリ約四分ノ一ノ所ニ設置アルヘシ、其他ノ建物ハ川ノ南西岸ニシテ其大区域ノ約中央ニ設置アルヘシ、其他許多ニ分裂セル小区域ハ此三区ノ中央ヨリシテ作業ヲ始ムヘシ  
尻内滞在中其溪野ノ測量ハ此測量ノ正図出來ノ節約成レリ、又三ヶ所ノ建物ニ就テハ尚容易ク了解アルナラン、而シテ此建物ヲ設置スヘキ各位置ハ尚詳明スヘシ  
爰ニ許多ノ理由アルヲ以テ此耕地ニ当初着手スルハ川ノ南西岸ヨリ始ムヘシ、其所以ハ<sup>〔マ〕</sup>ニハ該所ニハ現今農家兩三軒アルヲ以テ農夫ノ住家ヲ建築スルマテ農夫此家ニ居住シ

得ヘキト、第一種ノ地ニ於ケル此地方ハ当地ニ携帶セル羊ヲ牧養スルタメ可成丈ケ速クニ外國種ノ牧草ヲ得ルニ須要ナル第二種ノ地即チ川台地ノ一部ニ接近スレハナリ  
当初尻内ノ新開墾ニハ専ラ牛ヲ以テ耕スヘシ、其後ニ至テハ農業ニ馬而已ヲ用ユルヲ最モ經濟法ニ適フモノトス  
可成丈二三年内ニ其地ヲ多ク開墾センコトヲ希望スレハ耕牛約四十頭耕馬約二十頭ヲ備フヘシ、此耕牛（四十頭ヲ以テ春時ヨリ秋季ニ至ルマテ七箇乃至十箇ノ新墾犁ヲ使用セシム、然ル時ハ各犁ニテ一年ニ開墾スル地面約四十英町ノ概算ナレハ年々三百乃至四百英町ノ地ヲ開墾スヘシ、耕牛ノ數八年々異ルコトナシト雖トモ開墾地増加スル比例ニ從ヒ耕馬ノ數ヲ増サンヲ要ス、  
所力及速カニ許多ノ羊五百頭ヲ尻内ニ牧養センヲ要セハ当初着手ノ業ハ第二種即チ川台地百乃至百五十英町ヲ開墾シテ海外種ノ牧草ヲ播種シテ羊ヲ放ツ時直チニ牧場トナラシムヘクス、本年九月一日前ニ開墾シ終レル第二種ノ地ニハ当秋牧草種ヲ播種スヘシ、来年五月十五日前後迄ニ開墾セル所ヘハ其翌春燕麦ト牧草種ヲ交ヘ播種スルヲ得ヘ

シ

羊ニ須要ノ牧場整頓セハ第一種ノ地ヲ成ル  
ヘク多ク開墾シテ羊ヲ養育スルニ須要トスル  
物品ヲ耕作スヘシ、冬間耕獣ニ須要ナルハ重  
二玉蜀黍燕麦及ヒ藜ニ供スル草トス、斯テ食  
用ノ物品充分ニ備ハレル後販売スヘキ小麦  
大麦麻及ヒ蕃薯ニシテ容易ク栽培スルヲ得  
ルモノトス

第一種ノ地ハ余カ勸奨スル如ク分テ三圃ト  
スルトキハ開墾終ルマテ其事業ハ悉ク一圃ニ  
限レリ、而後耕牛ヲ総テ他ノ圃ニ移スヲ得ヘ  
シ、漸次如是シテ全ク開墾終レハ此耕牛ヲ販  
売シテ都テ其後ノ農業ハ馬ヲ以テスヘシ、抑  
モ新地ヲ開墾スルニ牛ヲ使フヨリ馬ヲ用フ  
レハ費用廉ナリト雖トモ、牛ヲ用フレハ作業充  
分ニ捗レルヲ以テ将来ノ煩勞ヲ省ク若干ナリ  
トス

第三種即チ川ノ北西端ニ在ル卑湿ノ地ハ第  
一種ノ盛大ナル地ニ隣レルヲ以テ容易ク排  
水スルヲ得ヘキカ如シ、余ハ山田氏ニ其測量  
ヲ精密ニシテ其広狭ト高低トヲ詳細ニセン  
コトヲ勸奨シ置ケリ

海外牧草ハ其種子得ラルヘキ丈ケ各種ヲ混  
渚シテ牧場トセンコトヲ企図セル第二種ノ地

面ニ下種スヘシ、然ルトキハ其種類ニ早春発芽

スルアリ、或ハ其ヨリ後ル、モノアリ、而シテ尚  
其他ノ種類ハ旱天ニモ枯槁セス綠色ヲ存ス  
ルモノアルヘシ、斯ク総テノ種子ヲ混渚シテ  
播種セハ只一二種ノモノヲ用ヒタル節ヨリ  
遙カニ優レル牧場ヲ得ヘシ、其故ハ數種ノ牧  
草ヲ一時ニ播種セハ早春ヨリ晩秋マテ絶ヘ  
ス綠色ヲ存スルヲ以テナリ、若シ春季牧草ヲ  
播種セントセハ燕麦ヲ下種スヘシ、而シテ藜ト  
穀類トハ同年中他ノ地ヨリシテ收穫アルヘ  
シ、若シ此地ニ秋季牧草種ヲ播種セハ其地ヨ  
リシテ此他ノ品ヲ得ヘカラス

#### 羊舎

冬間養育スヘキ羊舎ハ其食料ヲ栽培セル  
地ノ近傍ニ於ケル耕地ニ設置セサルヘカラ  
ス、然ル時ハ藜及ヒ穀類運搬ノ作業ト費用ト  
ヲ多ク節減スヘシ、其舎ノ造営ハ極メテ簡單  
幅十二尺ヨリ少ナカラス十八尺ヨリ多カラ  
サルヘシ、長ハ希望スル所ニ從フヘシ、其舎ノ  
一面ト両端トハ密閉シ他ノ一面ハ全ク開潤  
ナルヘシ 三面ヲ閉シ、一  
面ヲ開クヲ云 但シ其舎ノ密塞セル  
一面ハ高五尺ニ過キス、又開潤ノ面ハ八尺ヲ越ユ  
ヘカラス、抑モ羊ヲ密閉セル舎内ニ養フハ大  
ナル過ニシテ如斯所置ヲ施サハ羊ノ不健康

トナル必然トス、羊ニ須要ナル舎ハ暴雪風  
ト最モ寒冷ナル雨ヲ防禦スルトニアリテ、大  
氣疎通スル如クセハ羊ハ健全ナルモノトス  
札幌ニ於ケル羊舎ノ構造大概ハ極メテ良好  
ナレハ尻内ニ於ケル建築モ之<sup>【マ】</sup>之ト等シ造  
営アランヲ勸奨ス、羊舎及ヒ藪ト穀類トノ貯  
蓄場ノ建設ハ極メテ簡易ニシテ廉価トス  
ヘシ

春夏秋三季ノ間ハ羊ヲ特ニ擁護スルヲ要セ  
ス狼犬ノ危害ナケレハ只羊ヲ牧草発芽スル  
否ヤ直ニ牧場ニ羊ヲ放チ置カンヲ要ス、然ト  
雖トモ尻内ニ狼犬ノ危害アルニ於テハ夜間  
之ヲ防禦センヲ要ス、之ヲ施サンニハ高クシ  
稠密ナル柵ヲ囲ラシ夜間其中ニ羊ヲ入ルヘ  
シ

尻内ノ牧場ハ柵ヲ以テ四区乃至五区ニ分チ  
各種ノ群羊ヲ区分シ置クヘシ

本年尻内ニ羊ヲ移スノ計画ナリト幽ニ伝承ス  
是レ大ナル過ニテ其結果若干ノ金額ヲ徒消  
スルノミナラス、尚恐ラクハ全頭ノ羊ヲモ失  
ハン歟、少クモ現今ヨリ二年間ハ該地ニ羊ヲ  
移スヘカラス、其故ハ此時限マテ羊ヲ放ツノ  
準備整頓スヘカラス、若シ速カニ之ヲ移セハ  
絶ヘス路傍ニ在テ甚シク事業ノ障碍ヲナシ

且ツ群羊モ艱ムヤ必セリ  
此簡短ナル報文中ニ掲ケサル事項ニ係リ要  
セラル、件アリ、御報知アランニハ雀躍之  
ヲ開陳スヘシ、敬具

エドウキン・ダン手記